

問題番号 配点	正 答 例	採点のポイント
1 〔問 9〕 配点 6 点		○辺 B C の垂直二等分線を正確に引いている。 ○辺 B C の垂直二等分線と辺 A D との交点 P が正確に示されている。
2 〔問 2〕 配点 7 点	b を a を用いた式で表すと、 $b = a + 12$ d を c を用いた式で表すと、 $d = c + 12$ よって、 $P = \frac{a + b + c + d}{4}$ $= \frac{a + c + 12}{2}$ $24P = 24 \times \frac{a + c + 12}{2}$ $= 12a + 12c + 144 \quad \dots\dots\dots (1)$ また、 $Q = bd - ac$ $= (a + 12)(c + 12) - ac$ $= 12a + 12c + 144 \quad \dots\dots\dots (2)$ (1), (2) より、 $Q = 24P$	○向かい合う点の番号の数について、文字を用いた関係式を適切に表している。 ○$Q = 24P$ となることについて、推論の過程が的確に示されている。
4 〔問 2〕 ① 配点 7 点	$\triangle APR$ と $\triangle AQR$ において、 共通な辺だから、 $AR = AR \quad \dots\dots\dots (1)$ 仮定から、 $AP = AQ \quad \dots\dots\dots (2)$ 仮定から、 $\widehat{BR} = \widehat{QR}$ 等しい弧に対する円周角は等しいから、 $\angle PAR = \angle QAR \quad \dots\dots\dots (3)$ (1), (2), (3) より、2 組の辺と その間の角がそれぞれ等しいから、 $\triangle APR \equiv \triangle AQR$	○正しいと認められる事柄について、根拠を明確にして記述し、仮定から結論を導く推論の過程が的確に示されている。

各学校において、採点のポイントを踏まえて『部分点の基準』を作成し、『部分点の基準ごとの点数』を定めること。

なお、受検者の実態等に応じて、次の例のように詳細な基準を定めることができる。

- ・「○○について××が書かれている。」のように、具体的な内容を加えること。
- ・「○○と△△が書かれている。(3点)」「○○が書かれている。(2点)」「△△が書かれている。(1点)」のように、段階を設け、段階ごとの点数を設定すること。
- ・「誤字が一つ以上ある。(1点減点)」のように、部分点の基準を加えること。